

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	唐津市立浜崎小学校
1 前年度 評価結果の概要	・令和5年度は、浜玉中校区が唐津市学力向上の指定2年目である。小中で共通した取組「ラーニングマウンテン」をいかした単元づくりをおこない、算数科を中心に授業力向上、学力向上に努めていく。 ・令和4年度も不登校児が増加傾向にあることから、引き続き、全職員が「わかる授業」「人間関係づくり」を共通実践し不登校の未然防止に努め、登校しづりがみられた際には、担任だけでなく、学年主任、特別支援コーディネーター、教育相談担当等で支援会議を行い、初期対応の充実を図る。 ・校務分掌の見直しや学校行事、教育活動の精選は、可能な限り行っているが、在校時間に個人差があることから一部の職員の働き方の見直しが必要である。
2 学校教育目標	自他を大切にするとともに、共に学び・遊び・励む浜崎っ子の育成 ～みんなが仲よく みんなが楽しい学校 浜崎小学校～

3 本年度の重点目標	① すべての子どもを大切にした教育 ★特別支援教育の充実 ★学校全体のUD化 ★心の教育の充実 ② 学力向上 ★楽しい授業の創造（授業改善） ★中学校区で連携した学力向上推進 ★端末活用の推進 ③ チームワーク ★子どもたちとのチームワークで ★全職員のチームワークで ★地域・保護者とのチームワークで
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

1.共通評価項目							
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○学ぶ楽しさを実感できる授業の実践	○「授業が楽しい」と回答した児童90%以上	・校内研究を中心に情報の読み取りや説明する力が身に付くよう指導改善を行う。	B	・アンケートを実施し、「授業が楽しい」と回答した児童は86%であった。 ・児童はLMをともに作ることに楽しさを感じ、主体性につながっていると実感している。また、ゴールを見通せることで、児童の達成感につながっている。	B	・宿題で習っていないところが出されていたことがある。授業と家庭学習をしっかりつないでほしい。
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「学校が楽しい」と回答した児童が90パーセント以上	・ほかほかタイムを活用し、全校同じ教材の道徳授業に取り組み、心の成長を促す。自己肯定感を高め、学校が楽しいと感じさせたい。	A	・各学期に1回の「ほかほかタイム」の実施は、全クラスでしっかりできた。テーマを決め、教材をわかりやすいものにしたため、どの学年も意欲的に取り組んでいた。	B	・困ったことを相談する人がいない児童がいることが気になる。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの早期発見、早期対応について組織的にできていると回答した教員100%	・いじめアンケート後、結果の共有とその対応についての話し合いの場を毎回行う。	B	・いじめの早期発見、早期対応について組織的にできていると回答した教員は97%であった。いじめの認知件数も伸びていたが、結果的に見て学級により件数の差が見られた。いじめに関する共通理解をより一層進めていく必要が感じられる。	B	・教職員の意識と保護者の意識にやや差がみられるため、家庭や就学前の幼稚園や保育園での教育も考えていかなくてはならないのではないか。
●心の教育	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上	・各種キャリア教育や体験活動において、児童に活動の価値を感じさせながら見通しと学びの成果を振り返りを行う学習活動を仕組む。	B	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童82%。「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童は83%であった。一方で「児童のよいところを認め称賛するように努めている」と回答した職員は98%であり、児童と職員の間で認識の差が見られた。児童が認められていると実感できるような褒め方や認め方を進めている。	B	・先生たちも子どもたちの指導で困っていることがあるのではないかと。先生たちも困ったときはSOSを出してほしい。
	○児童が子供らしい発想を大切に、より良い学校生活にしようとするための教育活動	○「学校や学級を良くするために委員会活動や係活動を頑張っている」と回答した児童90%以上	・学級会活動や児童会活動での話し合い活動の場を多く設ける。児童が活躍する場を仕組む。	B	・縦割り班活動や委員会活動では、高学年を中心に自主的な活動ができた。集会活動では、多くの児童が活躍する場を設定することができた。 ・学級会活動が学級間で実施の差があった。	B	・委員会であいさつ運動が行われているようだが、あいさつをあまりしない子もいる。あいさつをする児童が増えてほしい。
	●健康・体づくり	○安全に関する資質・能力の育成	④児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・交通安全教室を行い、道路の歩き方等交通安全のきまりを徹底する。 ・集会などで自転車乗車時のヘルメット着用や交通ルールやマナーに関する啓発を行う。 ・家庭には自転車点検を推奨する。	B	・登校中に車と児童との接触事故があった。狭い道路での歩き方を指導する必要がある。 ・ほとんどの児童がヘルメットを着用できるようになってきた。自転車のきまりについては、引き続き指導を継続していく。 ・登下校中、広がったりぶさけたりして、地域の方から指導してもらったことがあった。来年度もその都度指導していく。	A
○安全に関する資質・能力の育成		○交通事故・けがの防止、感染症対策に努めている」に肯定的な回答をした児童90%以上	・運動場や遊具での安全な遊び方やルールを周知する。 ・室内の過ごし方、廊下の歩き方を見える化して児童の意識向上を図る。	A	・病気やけがをしないように気を付けて生活している児童の割合は85パーセントであった。 ・安全な生活を送るための工夫やルール作り、啓発を行った。その結果、登下校時や休み時間の大きな事故やけがを防止することができた。 ・今後も児童、保護者、教師が一体となり安全に対する意識を高めていきたい。	B	・家庭、就学前の幼稚園、保育園でも指導が必要
●業務改善・教職員の働き方改革の推進		●業務効率化の推進と時間外・在校等時間の削減	○「自身が決めた退勤時刻を意識して勤務している」に肯定的な回答をした職員95%以上	・「退勤ボード」を活用し、職員が自身の退勤時刻を意識して勤務できるようにする。	A	・保護者対応や学期末事務の繁忙期を除き、19時までに全員退勤できるようになった。 ・欠席アプリの導入により、朝の電話対応がなくなり、事務処理や児童の対応ができるようになった。	B
	○学校業務支援員(スクール・サポート・スタッフ)の活用	○「学校業務支援員の支援は業務改善に効果的である」に肯定的な回答をした職員95%以上	・「支援依頼カード」を活用し、学校業務支援員へ作業の依頼が、簡単に誰でもできるようにする。	A	・学校業務支援員の支援は業務改善に効果的である」に肯定的な回答をした職員は100%であった。今後も、教員でなくてもできる作業等を洗い出し、業務支援員に依頼していきたい。	B	・今年、学校サポーターとして、子どもたちの支援を行ったので、来年も継続していきたい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員の割合が95％以上	・UD教育を提案し、意識した授業・教室環境づくりを行うようにする。・コーディネーターを中心とした支援体制を充実させ、全教職員で関わる。	A	・職員も教室環境づくりに意識的に取り組んでいた。必要に応じて支援会議を開いたり、保護者面談をしたりしながら支援につなげることができた。また、児童理解研等の研修を通して児童の困り感や支援の手立てについても職員間で情報共有に努めることができた。	B	・自由記述では、保護者から先生方へ感謝の言葉が多く見られることから、学校が児童への指導について努力されていることがわかる。
○望ましい生活習慣の形成	○児童の食事や睡眠、通信機器利用についての意識向上	○「めざそう100点生活」において、90点以上の児童が、90％以上	・年間3回「めざそう100点生活」に取り組み、家庭の協力も得ながら、児童の生活習慣の形成を図る。	B	・各学期、学期初めに実施したことで、学期初めの生活習慣の改善に役に立った。家庭によって取り組み方に差があったので、保護者にも啓発していきたい。	B	・学校だけに任せるのではなく、家庭で行うものが大部分だと思う。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望

・学力向上については、学校の授業に対して否定的な回答をしている児童も一定数いることから、校内研を柱として、学ぶ楽しさを実感できるような授業となるように、指導方法の工夫改善が必要である。
・特別支援教育の充実、学力向上や不登校・いじめの未然防止の一翼を担っていることから、さらに授業のUD化や支援体制の充実を図っていく。
・教育業務支援員やICT活用により、業務改善が進んだ。次年度は校時や業務の見直しを行い、教職員が児童に向き合える時間や教職員同士の情報交換の時間を増やしたい。